

路盤材料試験報告書

◇材料の種類 RC-40 (再生骨材)

令和4年4月

株式会社 柳田産業



(株) 柳田産業 殿

東建土質測量設計 株式会社
福島県須賀川市大袋町190
☎ 0248 - 76 - 3957
担当者 菊地 英明

試験結果の報告について

御依頼のありました材料試験を完了いたしましたので報告書を提出いたします。

記

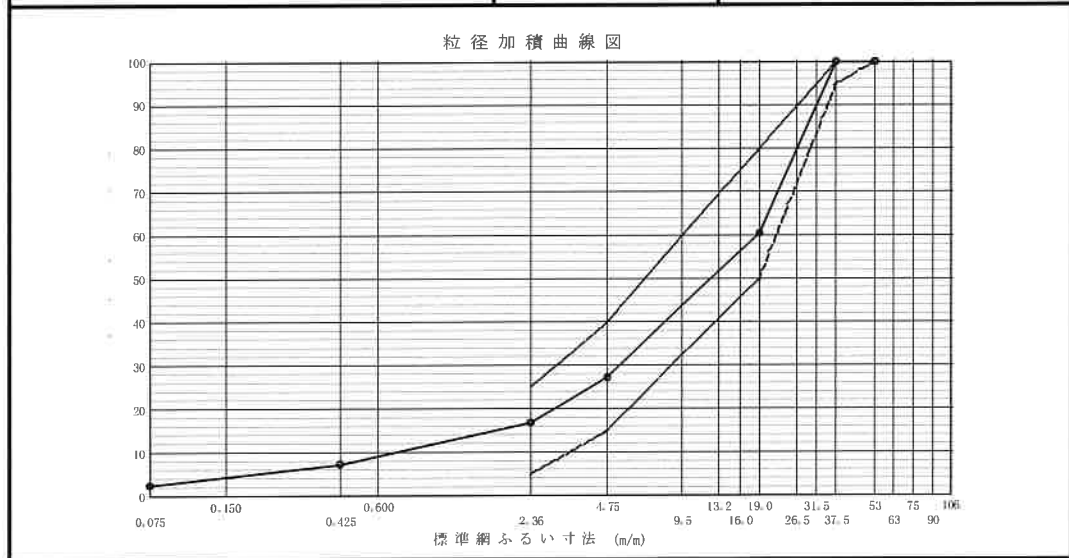
- ◇ 試験試料 RC-40 (φ0~40mm)
- ◇ 試料採取地 郡山市逢瀬町河内 地内
- ◇ 試験種別 ○骨材のふるい分け試験 (JIS A 1102)
 ○土の液性限界・塑性限界試験 (JIS A 1205)
 ○突固めによる土の締固め試験 (JIS A 1210)
 ○修正CBR試験 (JIS A 1211)

上記の試験を実施いたしました。

試験結果については別紙試験成績一覧表及び試験報告書を参照されたい。

○試験結果一覧表

試験内容	材料種別	RC-40 (φ0~40mm)	下層路盤の品質規格
液性限界 LL %		NP	—
塑性限界 PL %		NP	—
塑性指数 PI		NP	6.0以下
締固め試験方法		E-b	—
最大乾燥密度 γ_{dmax} Mg/cm ³		1.814	—
最適含水比 Wopt %		10.3	—
修正CBR値 %		73.7	※1 20%以上
所要密度 Mg/cm ³		1.723	$\gamma_{dmax} \times 95\%$



※1 アスファルトコンクリート再生骨材を含む再生クラッシュランを用いる場合で、上層路盤、基層、表層の合計厚が30cmより小さい場合は、修正CBRの値は30以上とする。

なお40℃でCBR試験を行う場合は20%以上としてよい。

○凍上性に対する判定

置き換え深さ内の粒状材料

置き換え深さ内の材料は、その使用目的に応じて必要な品質、規格に合致すると同時に、凍上を起しにくい材料でなければならない。凍上を起しにくい材料は材料の種類に応じて次のようなものを目安とする。

- (1) 砂：0.075mmふるいを通過するものが全試料の6%以下となるもの。
- (2) 切込砂利：全試料について0.075mmふるいを通過する量が、4.75mmふるいを通過する量に対して9%以下となるもの。
- (3) 切込碎石：全試料について0.075mmふるいを通過する量が、4.75mmふるいを通過する量に対して15%以下となるもの。

火山灰土については、細粒分含有率のみで凍上性を判断することは難しいため、凍上が問題となる箇所で火山灰土を利用する場合には、凍上試験により判定するものとする。

◇フルイ分け試験より

4.75mmふるい通過量……………22.3%
0.075mmふるい通過量…………… 1.7%

$$\frac{2.4}{27.2} \times 100 = 7.6 \% \leq 15 \%$$

以上の結果より、凍上を起しにくい材料と判定される。

※（社）日本道路協会 道路土工要綱P.213より